

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国語		学年	3 学年	単位数	2 単位
科目名	文学国語		担当者	坂口 英樹		
使用教材	文学国語(東京書籍) カラー版新国語便覧(第一学習社)、実用国語の演習(中部日本教育文化会)、 セレクト漢字検定(桐原書店)					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 2 文章を読むことを習慣化するとともに、共感したり、想像したりする力を伸ばすとともに、自分の将来の生き方と結びつけて創造的に考える力を養う。 3 生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 					
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 筆者が文章によって何を伝えようとしているかを的確に捉えられるように、重要部分の抜き出しや要約に取り組む。分からない語句を読み飛ばさず、興味を持って調べる習慣を付ける。 2 取り扱った文章や教材に関して自分なりの意見を持ち、それを条件(時間や文字数)に合わせて発表したり、文章にまとめたりする。 3 補助テキストや便覧を用いて、国語常識に関する小テストを行うので、日頃から語彙や文学史の学習に取り組むことを推奨する。 					
必ず取り組む最小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートや本文の要約などの課題を提出する。 ・国語常識に関するテストなどに向けて、家庭でも学習する習慣を付ける。 					
実現したいと思う最大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張やテーマを的確に捉えるとともに、自分の身近なことを結びつけながら、自分なりに考え、論理性や説得力のある意見を持つ。 					
評価の方法及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総括して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・休み明けテスト ・小テスト 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出された課題の内容 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分身に付けている。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させている。
B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしている。	
C	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けていない。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていな		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしていない。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国語	学年	3 学年	単位数	2 単位
科目名	古典探究	担当者	谷 美幸 比企 絢子		
使用教材	教科書:新編古典探究(東京書籍) 教材:体系古典文法(数研出版)・体系古典文法準拠ノート(数研出版)、古文単語330(文英堂)、 古文単語330ワークノート、カラー版新国語便覧(第一学習社)				
学習目標	<p>1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。</p> <p>2 作品にある先人のものの見方、感じ方、考え方に触れることで、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。</p> <p>3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p> <p>4</p>				
学習方法	<p>1 本文を繰り返し読む。予習で音読・授業で速読(時間を計測し、変化を見る)を習慣化する。確実に読めることが確実な内容理解につながる。</p> <p>2 予習として本文をノートに書き写し、授業での書き込みができるようにしておく。また、語句を調べて自分でできるだけ通釈をしてみる。毎回、古文単語の小テストを行うので予習の習慣をつける。語彙を豊かにすることが読解力につながる。</p> <p>3 板書は確実にノートに書く。板書以外でも大切なと思われることはノートに書き留めるようにする。質問に積極的に答えるだけでなく、作品から伝わるものを自分のこととして捉え直し、比較して考えてみる。単元ごとの課題に対応できるようなノートを作成する。</p>				
必ず取り組む最小目標	古文・漢文の読みを確実にし、作品内容を理解できる。古典の世界に興味関心を持ち、自主的に古典学習に取り組むことができる。				
実現したいと思う最大目標	文法事項を理解し、辞書を利用して本文の現代語訳ができる。時代背景・作者の考え・登場人物の心情を理解し、現代に生きる自分自身と比較し、豊かに表現することができる。				
評価の方法及び評価基準ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査、課題 ・夏休み明けテスト ・小テスト、単元テスト	・定期考査 ・課題への取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題、ノート提出状況	
	A	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を深く身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。	
B	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解をしようと努めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるよう努めている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うよう努めている。		
C	国語の知識や技能を身に付けていない。また、言語文化に対する理解を深めていない。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるよう努めていない。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うよう努めていない。		

令和6年度 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国 語	学年	3 学年	単位数	2 単位
科目名	発展現代文	担当者	田口耕平		
使用教材	力をつける現代文 ステップ3(数研出版)、現代文単語ノート(文英堂)				
学習目標	<p>1 国語総合、現代文で学んだ内容を基に、基礎的な国語力の充実を図る。</p> <p>2 現代文の問題演習を行い、論理的な思考力を身につける。</p> <p>3 1と2の目標を達成することで、意見や主張を的確に書いたり話したりする能力を養う。</p>				
学習方法	<p>1 日頃から、意識して語彙力の向上に努め、読解の基礎を固めるよう心がけてください。</p> <p>2 現代文の問題を的確に読み取る力を身につけることができるよう演習に取り組んでください。</p> <p>3 「話すこと」・「書くこと」も重視します。授業時の活動や課題に意欲的に取り組むこと。積極的に学ぼうとする意欲が学習の成果に繋がります。</p>				
必ず取り組む 最小目標	語句調べ、課題の期限内の提出、小テストや定期考査にむけた学習を進んで行き、文章を適切に読み取る力を養う。				
実現したいと 思う最大目標	分析的に読みを進める手法を学んだり、情報をまとめて報告する方法を学んだりして、「話す・聞く・読む・書く」力の総合的な力を養う。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総括して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	小テスト、定期考査(前期末・後期末)	プリント、ワークノートへの取り組み、小テスト、定期考査(前期末・後期末)	授業時の参加状況、プリント、ワークノートへの取り組み	
	A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させている。	
B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしている。		
C	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けていない。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていない。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしていない。		

令和6年度 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国 語		学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	国語表現		担当者	田口耕平		
使用教材	高等学校 改訂版 国語表現 【第一学習社】					
学習目標	<p>1 国語総合・現代文で学んだ内容を基に、基礎的な国語力の充実を図る。</p> <p>2 論理的な思考力を身に付け、自己表現力を磨く。</p> <p>3 1, 2の目標より、国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を養う。</p>					
学習方法	<p>1 日頃から、意識して丁寧に「話す・聞く・読む・書く」ことに努めること。また、自分の意見も相手の意見も大切にしようと思えること。</p> <p>2 「書くこと」についての課題が多くなります。文は突然書けるようにはなりません。授業や課題を通して根気強く取り組んでください。</p> <p>3 「話すこと」・「聞くこと」も重視します。授業時の活動や課題に意欲的に取り組むこと。積極的に学ぼうとする意欲が学習の成果に繋がります。</p>					
必ず取り組む最小目標	言葉の力を磨き、自分の考えを適切に話したり、文にすることができるようになるとともに、相手の考えを理解し、日常生活や自己の表現に生かすことができる。					
実現したいと思う最大目標	「国語における一般常識」を確かなものとするとともに、分析的に読みを進めたり、情報をまとめて報告する方法を学んだりして、文章の整え方や書き方など人としての一般常識を習得する。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させている。		
	B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしている。		
	C	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けていない。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていな	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしていない。		

教科名	公民	学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	政治・経済	担当者	杉村 峰行		
使用教材	教科書;政治・経済(東京書籍701) 資料集;最新図説 政経(浜島書店)				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 民主主義の重要性を理解し、政治経済に関心を持ち、主体的に社会を構成する一員としての自覚を高める。 2 現代社会の政治・経済を主体的にとらえ、環境・労働・福祉などさまざまな社会問題を考える。 3 日本や世界の諸地域で起きている諸問題に関心を寄せ、生き方を考える。 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業中最低限のルールを守ること。(1)私語をしない(2)チャイム前着席・授業の準備を忘れない(3)ノートやプリントの記載は丁寧に書く(4)ノートには、メモ、まとめ、感想や意見を記入する 2 授業を大切にすること。(1)説明・質問・注意をよく聞く(2)教科書・課題を熟読する(3)プリント・資料を活用する(4)授業の内容について自分でまとめ、課題を発見し意見を論理的に表現する 3 家庭学習を続けること。(1)日常の家庭学習課題へまじめに取り組む(2)2週間前には考査前の復習をはじめる(3)夏季・冬季休業中の重点課題も頑張る(必ず提出。提出しないと評価が大きく下がる) 				
必ず取り組む最小目標	生徒としての最低限の義務を果たす(1)出席する(2)私語・居眠りをしない(3)チャイム前着席・授業の準備を忘れない(4)ノートやプリントの記入は丁寧に				
実現したいと思う最大目標	生徒としての義務をクリアするばかりではなく、積極的に学習し現代社会の諸問題を深く考察する(1)プロセスを重視(2)調べ学習(3)表現力(4)冷静で公正な態度(5)コミュニケーション能力				
評価の観点	<p>次の3つの観点に基づき評価を行い、それらを総括して前期末・後期末に10段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に5段階で評定を行う。これらの評価に占める定期考査の割合は概ね8割。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 関心・意欲・態度 … (1)学習対象に対する関心を高め、課題を意欲的に追究しているか。 (2)民主的、平和的なよりよい社会の実現に向けて参加・協力する態度を身に付けることができるか。 (3)自己の生き方を主体的に選び取り、意義ある人生を送ることへの自覚を深めようとしているか。 (4)諸資料を収集し、有用な情報を主体的に選択・活用しているか。 (40 %) 2 思考・判断・表現 … (1)現代の社会と人間にかかわる事柄や課題を見いだしているか。 (2)現代社会の諸問題の本質や民主政治の本質などについての考察をしているか。 (3)人間の存在や価値など倫理的な考察をしているか。 (4)社会の変化や様々な考え方があることを考慮して判断して、適切に表現しているか。 (30 %) 3 知識・理解 … (1)基本的な事項について、理解をしているか。 (2)理解した内容を生きて働く知識として自らの中で体系化し、身に付けることができるか。 (30 %) <p>●毎時間、上の3観点のいずれかを評価する。</p>				
評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 関心・意欲・態度 … 建設的な意見の表明、ノート・レポートなどの課題提出 2 思考・判断・表現 … 考査、日常の授業でのレポート、夏・冬の課題(提出しないと評価が大きく下がることになる) 3 知識・理解 … 考査、課題提出、小テスト、振り返り <p>・中間・期末考査、レポートなどによる評価する。 ・平常点は、出席状況、授業態度、レポート、小テスト、ノート提出等による評価する。 ・テストの点数をベースにして平常点を加味して評価する。</p>				

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	公民科		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	基礎社会		担当者	寺 嶋 優 駿		
使用教材	政治・経済(東京書籍311) 最新図説 政経(浜島書店) ※いずれも政治・経済(必修)で使用しているもの					
学習目標	1 社会的事象について関心を持ち、主体的に社会を構成する一員としての自覚を養う。 2 現代社会の諸課題を主体的に捉え、さまざまな社会問題について考察する態度を育む。 3 日本や世界の諸地域でおきている諸問題に関心を寄せ、自分に結びつけて生き方を考える。 4 設定した課題について適切に情報を取捨選択し、それらを分析し、自分の意見をまとめて表現する力を身に付ける。					
学習方法	1 自分の考えの正解・不正解を気にするのではなく、意見を形成する過程を大切にしている。 2 個人思考も大切だが、他者の意見に触れて自分の意見を深めていく。 3 授業のみで完結するのではなく、日頃からニュースや社会問題に関心を持ち、生活に活かしていく。					
必ず取り組む最小目標	社会的事象について自分の意見を形成する力を養う。					
実現したいと思う最大目標	社会的事象について多面的・多角的に考察する態度と自らの意見をまとめ、発信する力を身に付ける。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	レポート プレゼンテーション ペーパーテスト		レポート プレゼンテーション ディベート		観察 グループワーク
	A	①社会的事象について自らの意見を適切な方法で他者に伝える技能を身に付けている。 ②社会的事象について正しい知識を身に付け、その知識を活用している。 ③文献やインターネットから適切な情報を取捨選択し、収集する技能を身に付けている。		①社会的事象について、多面的・多角的に分析し、自らの意見をまとめて表現している。 ②「社会人」として適切な行動を選択する判断力を身に付けている。		①他者の意見を尊重し、受容しようとする態度を身に付けている。 ②社会的事象について主体的かつ協働的に解決に向けての方策を見出そうとしている。
	B	①社会的事象について自らの意見を他者に伝える技能を身に付けている。 ②社会的事象について正しい知識を身に付けている。 ③文献やインターネットから情報を収集する技能を身に付けている。		①社会的事象について、多面的・多角的に分析し、自らの意見をまとめて表現している。 ②「社会人」として適切な行動を選択する判断力を身に付けている。		①他者の意見を尊重しようとする態度を身に付けている。 ②社会的事象について協働的に解決に向けての方策を見出そうとしている。
C	①社会的事象について自らの意見を形成している。 ②社会的事象について知識を身に付けている。 ③文献やインターネットから情報を収集している。		①社会的事象について、多面的・多角的に分析し、自らの意見をまとめて表現している。 ②「社会人」として適切な行動を選択する判断力を身に付けている。		①他者の意見をきいている。 ②社会的事象について解決に向けての方策を見出そうとしている。	

令和6年度 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地理 歴史	学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	日本史探究（選択1）	担当者	鶴身 幸一		
使用教材	教科書 高等学校 日本史探究 新視点による日本通史とアジア・世界（清水書院） 図説 日本史通覧（帝国書院）				
学習目標	<p>1 日本の歴史を政治・経済・社会など総合的に理解します。</p> <p>2 歴史を学ぶことで、現代の社会的事象に興味がわくように努めます。</p> <p>3 史料や絵画の利用して、歴史を身近なものとして感じられるようにします。</p>				
学習方法	<p>1 授業中最低限のルールを守ること。①私語をしない②チャイム前の着席・授業の準備を忘れない③ノート（板書・メモ・まとめ・感想）やプリントを丁寧に書く。</p> <p>2 授業を大切にすること。①説明・質問・注意をよく聞く、②教科書を熟読する、③プリントを活用する</p> <p>3 家庭学習を続けること。①日常的に復習（教科書の音読）をすること、②考査前には特に復習に力を入れる</p>				
必ず取り組む最小目標	教科書の音読と内容の理解				
実現したいと思う最大目標	グループワークを通じて歴史の理解を深め、現在の諸課題を探究する				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	
	B	①話している人を見て、うなづくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする	
C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる	①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める		

教科名	地歴・公民	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	日本史論考	担当者	杉村 峰行		
使用教材	高等学校 日本史B 最新版 (清水書院) 図説 日本史通覧(帝国書院)				
学習目標	1 日本の近現代の歴史を政治・経済・社会など総合的に理解するとともに、歴史的思考力を培う。 2 日本史Bで学んだ内容についての理解を深めるとともに、知識の定着を図る。				
学習方法	1 政治・経済史を主体として講義を中心としながら、各種資料や歴史地図なども用いて作業も行う。 2 日本史Bで学んだ内容も含めて、問題演習を行う。 3 課題を課すことによって、家庭学習を定着させる。				
評価の観点	次の3つの観点に基づき評価を行い、それらを総括して前期末・後期末に10段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に5段階で評定を行う。これらの評価に占める定期考査の割合は概ね8割。 1 関心・意欲・態度 … (40 %) <ul style="list-style-type: none"> (1)学習対象に対する関心を高め、課題を意欲的に追究しているか。 (2)民主的、平和的なよりよい社会の実現に向けて参加・協力する態度を身に付けることができるか。 (3)自己の生き方を主体的に選び取り、意義ある人生を送ることへの自覚を深めようとしているか。 (4)諸資料を収集し、有用な情報を主体的に選択・活用しているか。 2 思考・判断・表現 … (30 %) <ul style="list-style-type: none"> (1)現代の社会と人間にかかわる事柄や課題を見いだしているか。 (2)現代社会の諸問題の本質や民主政治の本質などについての考察をしているか。 (3)人間の存在や価値など倫理的な考察をしているか。 (4)社会の変化や様々な考え方があつことを考慮して判断して、適切に表現しているか。 3 知識・理解 … (30 %) <ul style="list-style-type: none"> (1)基本的な事項について、理解をしているか。 (2)理解した内容を生きて働く知識として自らの中で体系化し、身に付けることができるか。 ●毎時間、上の3観点のいずれかを評価する。				
評価の方法	1 関心・意欲・態度 … 建設的な意見の表明、ノート・レポートなどの課題提出 2 思考・判断・表現 … 考査、日常の授業でのレポート、夏・冬の課題(提出しないと評価が大きく下がることになる) 3 知識・理解 … 考査、課題提出、小テスト、振り返り ・中間・期末考査、レポートなどによる評価する。 ・平常点は、出席状況、授業態度、レポート、小テスト、ノート提出等による評価する。 ・テストの点数をベースにして平常点を加味して評価する。				

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地歴公民	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	地理論考	担当者	辻 眞		
使用教材	教科書 : 新詳地理探究(帝国書院) 地図帳 : 新詳高等地図 (帝国書院) 資料集 : 新詳地理資料 COMPLETE 2022(帝国書院)				
学習目標	これまで身につけた地理的認識力をもとに、さらなる地理的なものの見方や考え方を培い、主題について他者と論じる中で、主体的に判断し行動する能力を育成する。				
学習方法	1 授業を大切に積極的に取り組み、重要な知識の定着に心がける。また、課題にしっかり取り組み、忘れずに提出する。 2 暗記だけでなく、グラフを分析したり地図の読図・作図などができることが重要である。わからない地名などが出てきたときには地図帳で調べることが大切である。 3 世界諸地域の生活・文化及び地球的課題を理解するためにも、新聞やテレビ等から積極的に情報を得ようとする姿勢が大切である。				
必ず取り組む最小目標	生徒として最低限の義務を果たすことができる。(1)出席する(2)私語・居眠りをしない(3)チャイム前着席・授業の準備を忘れない(4)ノートやプリントの記入は丁寧に行う。				
実現したいと思う最大目標	地球市民として「異文化の尊重」と「国際協力の推進」のために、(1)多文化共生(2)持続可能な開発(3)人権尊重(4)公正さなどの実現をめざして積極的に関わっていこうとする態度を身につける。				
評価の方法及び評価基準ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	定期考査、課題、小テスト	定期考査、課題	学習活動状況、課題	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	
B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする		
C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することができる	①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める		

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数学		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	数学Ⅲ		担当者	持田裕孝		
使用教材	数学Ⅲ Standard					
	東京書籍 WIDE Ⅲ Standard Buddy					
学習目標	1 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。					
	2 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。					
	3 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					
	4					
学習方法	1 授業ではテキストプリントをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むように努力すること。					
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、副教材などで繰り返し復習し実力を高めること。					
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習すること。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト		・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、積極的に評価・改善しようとしたりしている。
B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し、数学を活用しようとし、数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。	
C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができない。		数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。		数学のよさを認識しようとして、粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようとしていない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていない。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数学		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	数学C	担当者	持田裕孝			
使用教材	数学C Standard					
	東京書籍 WIDE C Standard Buddy					
学習目標	1 ベクトルと複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。					
	2 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。					
	3 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。					
	4					
学習方法	1 授業ではテキストプリントをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むように努力すること。					
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、副教材などで繰り返し復習し実力を高めること。					
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習すること。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況		
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、積極的に評価・改善しようとしたりしている。		
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。		
C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができない。	数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。	数学のよさを認識しようとして、粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようとしていない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていない。			

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数 学	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	数学研究 I (選択3)	担当者	女鹿 一洋、高松 朋亮		
使用教材	2024 短期集中ゼミ 看護・医療系のための数学 I + A 数学 I Standard (東京書籍)、数学A Standard (東京書籍) 新課程Standard Buddy WIDE 数学 I +A(東京書籍)				
学習目標	1 既習分野の数学 I・Aの復習をすることで、数学的な考え方の必要性を理解する。 2 過去の看護学校の入試問題や大学入学共通テストの問題演習を通して、知能と技能を修得させる。				
学習方法	1 授業ではノートをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むよう努力すること。 2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、宿題+小テストに毎回取り組み、副教材などで繰り返し復習し実力を高めていくこと。 3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習すること。				
必ず取り組む最小目標	数学的な活動を通して、数学の良さを認識できるようにする。				
実現したいと思う最大目標	数学的な活動を通して、事象を数学的・論理的に考察し、それらを活用できるようにする。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題 ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、積極的に評価・改善しようしたりしている。	
B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し、数学を活用しようしたり、数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようしたりしている。		
C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができない。	数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。	数学のよさを認識しようせず、粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようしない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようしない。		

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数学		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	数学研究Ⅱ		担当者	石黒 雄佑		
使用教材	大学入学共通テスト対策/基本と演習数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C 標準演習PLAN100					
	数学Ⅱ Standard(東京書籍)(数学Ⅱで使用した教科書)					
	プリント教材					
学習目標	1 既習分野の数学Ⅱ・数学B・数学Cの復習をすることで、数学的な考え方の必要性を理解する。					
	2 生徒自らが解答を説明することで、知識と技能を習得させる。					
	3					
	4					
学習方法	1 「生徒自ら問題を解く」ことを重視し、それを発表することで、お互いの理解度を高めていく。					
	2 プリント学習や課題・宿題を通して、自ら学習する積極的な態度が必要となる。					
	3					
必ず取り組む最小目標	数学的な活動を通して、数学のよさを認識できるようにする。					
実現したいと思う最大目標	数学的な活動を通して、事象を数学的・論理的に考察し、それらを活用できるようにする。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題		・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況 ・学習成果の発表内容
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。学習成果の発表などを通して考察を深めたり、積極的に評価・改善しようとしている。
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。学習成果の発表などを通して考察を深めたり、評価・改善しようとしている。
C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができない。		数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識することができない。数学的な表現を用いることができない。		数学のよさを認識しようとして、粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようとしていない。学習成果の発表をしたり、評価・改善しようとしていない。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数学		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	実用数学		担当者	女鹿 一洋		
使用教材	完全攻略 高校生の基礎数学トレーニング					
	SPI対策ドリル					
	プリント教材					
学習目標	1 数学の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。					
	2 既習分野の数学 I・数学Aの復習をすることで、数学的な考え方の必要性を理解する。					
	3 基礎的な数学の知識と技能を修得させる。					
	4					
学習方法	1 数や式に関する基礎的な計算演習をする。また、既習分野の数学 I・数学Aの復習をする。					
	2 「生徒自ら問題を解く」ことを重視し、それを発表することで、お互いの理解度を高めていく。					
	3 プリント学習や課題・宿題を通して、自ら学習する積極的な態度が必要となる。					
必ず取り組む最小目標	数学的な活動を通して、数学のよさを認識できるようにする。					
実現したいと思う最大目標	数学的な活動を通して、事象を数学的・論理的に考察し、それらを活用できるようにする。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・小テスト, 単元テスト		・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統一的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 積極的に評価・改善しようとしている。
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統一的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしたり, 数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしている。
C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることができない。		数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識することができない。数学的な表現を用いることができない。		数学のよさを認識しようとしてせず, 粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようとしていない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしていない。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	地学基礎	担当者	森秀夫		
使用教材	地学基礎 改訂版 (啓林館)				
	センサー 地学基礎 改訂版 (啓林館)				
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高める。				
	2 目的意識をもって観察, 実験などを行い, 地学的に探究する能力と態度を育てる。				
	3 地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ, 科学的な見方や考え方を養う。				
	4				
学習方法	1 授業に集中し, 板書を書き写すのみならず, 説明をよく聞き, 内容を理解する。				
	2 原則单元ごと行われる小テストに向けて, 家庭学習に取り組み, 基礎知識を固める。				
	3 問題集などでの復習に努め, より多様な観点から, 地球の成り立ちやその構造, 変化, 宇宙等を理解する。				
必ず取り組む 最小目標					
実現したいと 思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だし, 見通しをもって観察, 実験などを行い, 得られた結果を分析して解釈し, 表現するなど, 科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり, 見通しをもったり振り返ったりするなど, 科学的に探究している。	
B	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。あるいは, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だしている。または, 見通しをもって観察, 実験などを行い, 得られた結果を分析して解釈し, 表現するなど, 科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わっている。あるいは, 見通しをもったり振り返ったりするなど, 科学的に探究しようとしている。		
C	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解していない。科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けていない。	自然の事物・現象から問題を見いだせない。見通しをもって観察, 実験などを行っていない。得られた結果を分析して解釈し, 表現するなど, 科学的に探究していない。	自然の事物・現象に主体的に関わっていない。見通しをもったり振り返ったりするなど, 科学的に探究しようとしていない。		

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科	学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	生物	担当者	高橋 玲美		
使用教材	生物(実教出版) アクセスノート生物(実教出版) ※Libry版を購入 サイエンスビュー生物(実況出版)				
学習目標	1 生物や生物現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、生物学的に探求する能力と態度を育てる。 2 生物や生物現象についての基本的な概念や原理・原則を理解し、科学的な自然観を育成する。 3 自然に対する総合的な見方を養う。				
学習方法	1 授業に集中し、板書を書き写すのみならず、説明をよく聞き、内容を理解する。 2 小テストや定期考査に向けて、家庭学習に取り組み、基礎知識を固める。 3 問題集などでの復習に努め、より多様な観点から、生物の成り立ちや制御のしくみ、行動等を理解する。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法及び評価基準ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	小テスト 定期考査 実験	定期考査 課題プリント	ノート・プリント ペアワーク・グループワーク	
	A	生物や生物現象について、これらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を身につけているとともに、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を習得している。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができ、生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することができる。	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	
B	生物や生物現象について、これらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を概ね身につけているとともに、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を概ね習得している。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることが概ねでき、生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することが概ねできる。	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとして概ねしている。		
C	生物や生物現象について、これらの基本的な概念や原理・法則の理解がなく、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけておらず、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能も習得していない。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができず、生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することもできない。	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとしていない。		

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	生物研究	担当者	高橋 玲美		
使用教材	リードLightノート生物基礎 (数研出版)				
	リードLightノート生物 (数研出版)				
学習目標	1 生物や生物現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、生物学的に探求する能力と態度を育てる。				
	2 生物や生物現象についての基本的な概念や原理・原則を理解し、科学的な自然観を育成する。				
	3 自然に対する総合的な見方を養う。				
	4				
学習方法	1 身近な自然現象や日常生活に結びつけて学習を進めるよう意識すること。				
	2 復習では、授業で学習した内容について教科書・ノートの見直しを行うとともに問題集(副教材)を使って問題演習を行うこと。				
	3 ノート・実験レポートは板書を写すだけでなく、大切な内容や授業後に自分で調べた発展的な内容を書き加えるなど、後で見直してもよくわかるような工夫をすること。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。	
B	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。あるいは、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だしている。または、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わっている。あるいは、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
C	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解していない。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けていない。	自然の事物・現象から問題を見いだせない。見通しをもって観察、実験などを行っていない。得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究していない。	自然の事物・現象に主体的に関わっていない。見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしていない。		

令和6年度 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理 科		学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	物理		担当者	若原 正人		
使用教材	数研出版『物理』 リードLightノート 物理（数研出版）					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てる。 2 基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。 					
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業前に教科書を読み、重要語句・中学校での既習事項を確認する。 2 授業では、板書を写すことにとどまらず、計算過程や式の変形の過程を自分自身で繰り返し、理解を深める。 3 問題集を解き、理解度を確認する。小テストごとに復習する。復習なくして、知識や問題を解く力の定着は見込めない。プリントの発展的な問題にも積極的に取り組もう。 					
必ず取り組む最小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・問題から物理量を抜き出すことができる。 ・適用する公式を見つけて使うことができる。 					
実現したいと思う最大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象から物理量を設定することができる。 ・自然の中に潜む物理法則を見い出すことができる。 					
評価の方法及び評価基準ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	単元テスト 問題演習		単元テスト 問題演習		ペアワーク・グループワーク リフレクション演習
	A	物理や物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を身につけているとともに、物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を習得している。		物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができ、物理現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することができる。		物理や物理現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する能力と態度を身につけようとする。
B	物理や物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を概ね身につけているとともに、物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を概ね習得している。		物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることが概ねでき、物理現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することが概ねできる。		物理や物理現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する能力と態度を身につけようとして概ねしている。	
C	物理や物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則の理解がなく、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけておらず、物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能も習得していない。		物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができず、物理現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することもできない。		物理や物理現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する能力と態度を身につけようとしていない。	

令和6年度 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理 科	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	物理研究	担当者	若原 正人		
使用教材	数研出版『物理』 リードLightノート 物理（数研出版）				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てる。 2 基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業前に教科書を読み、重要語句・中学校での既習事項を確認する。 2 授業では、板書を写すことにとどまらず、計算過程や式の変形の過程を自分自身で繰り返し、理解を深める。 3 問題集を解き、理解度を確認する。小テストごとに復習する。復習なくして、知識や問題を解く力の定着は見込めない。プリントの発展的な問題にも積極的に取り組もう。 				
必ず取り組む最小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・問題から物理量を抜き出すことができる。 ・適用する公式を見つけて使うことができる。 				
実現したいと思う最大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象から物理量を設定することができる。 ・自然の中に潜む物理法則を見い出すことができる。 				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	単元テスト 問題演習	単元テスト 問題演習	ペアワーク・グループワーク リフレクション演習	
	A	物理や物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を身につけているとともに、物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を習得している。	物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができ、物理現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することができる。	物理や物理現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	
B	物理や物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を概ね身につけているとともに、物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を概ね習得している。	物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることが概ねでき、物理現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することが概ねできる。	物理や物理現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する能力と態度を身につけようとして概ねしている。		
C	物理や物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則の理解がなく、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけておらず、物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能も習得していない。	物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができず、物理現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することもできない。	物理や物理現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する能力と態度を身につけようとしていない。		

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	化学研究	担当者	永木 正彦		
使用教材	高等学校 化学(第一学習社)				
	セミナーノート 化学(第一学習社)				
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。				
	2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。				
	3 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
	4				
学習方法	1 授業前に教科書を読み、重要語句・中学校や前年度の授業での既習事項を確認する。				
	2 授業では、板書を写すことにとどまらず、計算過程や式の変形の過程を自分自身で繰り返し、理解を深める。				
	3 問題集を解き、理解度を確認する。小テストごとに復習する。復習なくして、知識や問題を解く力の定着は見込めない。プリントの発展的な問題にも積極的に取り組もう。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・単元テスト ・課題の取り組み状況 ・実験の取り組み状況	・単元テスト ・課題の取り組み状況 ・実験の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況 ・小テスト	
	A	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。	
B	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。あるいは、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だしている。または、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わっている。あるいは、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
C	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解していない。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けていない。	自然の事物・現象から問題を見いだせない。見通しをもって観察、実験などを行っていない。得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究していない。	自然の事物・現象に主体的に関わっていない。見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしていない。		

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	保健体育	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	体育	担当者	市山貴一・加藤武志・豊田裕子・奥 恭平		
使用教材					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 運動の多様性・体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付け、活用する力を養う。 2 課題の発見・解決のために思考、判断するとともに、それを他者に伝える力を養う。 3 公正・協力・責任・参画などの意欲を育て、生涯にわたり継続的に運動に親しむ資質・能力を養う。 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 積極的に授業に参加し、その種目の知識や技能、そして安全について理解する。 2 自己やチームについて課題の発見と解決を目指し、周囲とコミュニケーションをとりながら練習や試合の工夫に取り組む。 3 ペアワークやグループワークにより、身体活動と共に、言語活動が活発になるよう積極的に取り組む。 				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法及び	<p>学期末・学年末の学業成績の評価・評定は学習指導要領の各教科の評価の観点及びその趣旨や特性を踏まえて、観点別評価をし、総合的に判断して行う。</p> <p>①評価の主な観点(3観点)は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」とする。</p> <p>②前・後期末の成績は、3観点評価及び5段階評価を行う。</p> <p>③学年末の成績は、その年度分を総合的に評価し、3観点評価及び5段階評定を行う。</p>				
評価基準 ルーブリック	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・技能テスト ・ルールテスト ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループ活動の取り組み状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への取り組み状況 	
評価基準は次のページに記載					

評価基準		知識	技能	思考・判断	表現	主体性
5	A	①技術・戦術の名称を教えられるレベル ②ルールが教えられる主審レベル	①とても技能が高く、求めた課題ができる ・連携して得点を奪える・守備ができる ・仲間がプレイしやすい技能レベル ②各種目に必要な体力が身についている	①自分、他者、チームの良い点や改善点を発見できる ②課題の解決方法を具体的に言える ③楽しむための方法を見つけることができる ④拍手したくなるプレーをする	①成果や改善点を他者に伝えることができる ②個性豊かユニーク	①自らの意思で積極的かつ正確に動く ②助け合う教え合う ③諦めずに取り組んでいる。
4	A・B	①技術・戦術を理解している ②ルールの理解をしている副審レベル	①技能が高く、求めた課題が形になっている ・各種目の技能を試合で発揮できる ・動きながらプレーできる ②各種目に必要な体力が概ね身についている	①自分の良い点や改善点を発見できる ②良い点や課題を見つけることができる ③良い点や課題を意識して動くことができる ④プレーに関わろうとする意欲が高い	①作戦を話し合うことができる ②一生懸命だが単純 一生懸命ではないがユニーク	①自らの意思で動く ②指示されたことは正確に動く ③積極的に準備・体操 ④安全確保できる ⑤興味関心のあるものの取り組み状況が良好。
3	B	①技術・戦術理解が不十分 ②得点係レベル	・技能はやや劣るが一生懸命で求めた課題は概ねできる ・練習で各種目の技能を発揮できる	①指示されたことに対し課題を達成しようとしている ②流れに合やすことができる。 ③自身の取り組みについて振り返ることができる	①作戦を話し合いに参加できる ②まねる	①指示されたら動く指示通り行動できる。 ②フェアプレー
2	B・C	①技術・戦術理解はほとんどない	①求めた課題ができることもある 基本的な技能が不十分 ②動けない	①指示された課題のみ取り組んでいる ②課題を意識しない。 ③プレー等に関わろうとする意欲が低い	①話し合いに参加できない ②模倣もできない	①人任せ ②指導者が不安になり確認を求める
1	C	①まったく理解していない	①求めた課題ができない。	①考えて取り組んでいない ②課題を見つけることができない。	①取り組み内容不十分	①取り組み内容不十分 ②指示を聞かない。 ③スポーツマンシップに反するプレー

年間計画			評価の観点			
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	2	(入学式)				
4	3	オリエンテーション	授業についての説明			○
	4	体づくり運動、体育理論	集団行動、体ほぐしの運動、実生活に生かす運動の計画、器械運動、長距離走			○
	5	体づくり運動、体育理論	各種体ほぐしの運動、実生活に生かす運動の計画、器械運動、長距離走			○
	1	(連休)				
5	2	体づくり運動、新体力テスト	長距離、新体力テスト(外種目)		○	
	3	体育理論			○	
	4	I 期	男子:バスケットボール 女子:サッカー、ソフトボール			○
	5	I 期	〃			○
	1	I 期	〃		○	
6	2	(前期中間考査)				
	3	I 期	〃		○	
	4	I 期	〃	○	○	
	5	体育理論				○
	1	(学校祭)				
7	2	II 期	男子:ソフトボール 女子:ソフトテニス、バスケットボール		○	
	3	II 期	〃		○	
	4					
	5					
	1	(夏季休業)				
8	2					
	3	II 期	〃		○	
	4	II 期	〃	○		○
	5	(前期期末考査)				
	1					
9	2	体育理論			○	○
	3	体育大会練習			○	○
	4	体育大会練習			○	○
	5	体育理論			○	○
	1	III 期	男子:ソフトテニス 女子:ミニバレー			○
10	2	III 期	男子:ソフトテニス 女子:ミニバレー		○	○
	3	体育理論			○	
	4	IV 期	バレーボール/卓球(男女共修)		○	
	2	IV 期	〃	○	○	
11	3	IV 期	〃	○		
	4	(後期中間考査)				
	5	IV 期	〃		○	
	2	軽スポーツ	バドミントン(男女共修)		○	○
	12	3	〃	〃	○	
4		〃	〃			○
5						
1		(冬季休業)				
1	2					
	3					
	4	軽スポーツ	バドミントン(男女共修)			○
	5	(後期期末考査)				

令和6年度 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	保健体育	学年	3学年	単位数	3 単位
科目名	生涯スポーツ	担当者	市山 貴一・豊田裕子・奥 恭平		
使用教材					
学習目標	<p>1 生涯におけるスポーツライフの実現を目指し理解を深める。</p> <p>2 学ぶ意欲や自分で課題を見付ける能力を養う。</p> <p>3 自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する能力を養う。</p>				
学習方法	<p>1 積極的に授業に参加し、知識や技能や安全について理解する。</p> <p>2 自己の課題やチームの課題の解決を目指して、練習や試合の工夫に取り組む。</p> <p>3 生徒自ら、主体的に学習を進めていく場面を多く取り入れていく。</p>				
必ず取り組む 最小目標					
実現したいと 思う最大目標					
評価の方法 及び	<p>学期末・学年末の学業成績の評価・評定は学習指導要領の各教科の評価の観点及びその趣旨や特性を踏まえて、観点別評価をし、総合的に判断して行う。</p> <p>①評価の主な観点(3観点)は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」とする。</p> <p>②前・後期末の成績は、3観点評価及び5段階評価を行う。</p> <p>③学年末の成績は、その年度分を総合的に評価し、3観点評価及び5段階評定を行う。</p>				
評価基準 ルーブリック	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価 方法	・技能テスト ・ルールテスト ・観察	・ワークシート ・グループ活動の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況	
評価基準は次のページに記載					

年間計画

月	週	単 元	学 習 内 容		
	2	(入学式)			
4	3	オリエンテーション	年間計画、授業のルール、注意事項の確認		
	4	体力トレーニング	体づくり運動、自重を使ったウエイトトレーニング、縄跳び等		
	5	〃	〃		
	1	(連休)			
5	2	ゴルフ・バドミントン(雨天)	基本的技術の習得 ルール、戦術の理解 スキルテストの実施(技術評価) 試合(自己評価)		
	3	〃			
	4	〃			
	5	〃			
	5	〃			
	1	(前期中間考査)			
6	2	(前期中間考査)			
	3	ハンドボール	基本的技術の習得、ルール、戦術の理解、スキルテストの実施(技術評価)		
	4	〃	試合(自己評価)		
	5	〃	〃		
	1	(学校祭)			
7	2	〃	〃		
	3	〃	〃		
	4	(夏季休業)			
	5				
	1	(夏季休業)			
2					
8	3	パラスポーツ(シッティングバレー)	パラスポーツの歴史を知り、「する」「みる」をキーワードに、パラスポーツの理解を深め		
	4	〃	〃		
	5	(前期期末考査)			
	5	(前期期末考査)			
	1	(前期期末考査)			
9	2			〃	
	3			ソフトテニス	基本的技術の習得、ルール、戦術の理解、スキルテストの実施(技術評価)
	4			〃	試合(自己評価)
	5			〃	〃
	1	(前期期末考査)			
10	2			フロアカーリング・ボッチャ	基本的技術の習得、ルール、戦術の理解、スキルテストの実施(技術評価)
	3			〃	試合(自己評価)
	4			〃	〃
11	2	ハンドボール	基本的技術の習得、ルール、戦術の理解、スキルテストの実施(技術評価) 試合(自己		
	3	〃			
	4	(後期中間考査)			
	5	〃			
	5	〃			
12	2	〃			
	3	〃			
	4	〃			
	5	(冬季休業)			
	5	(冬季休業)			
1	1	(冬季休業)			
	2				
	3	〃			
	4	〃			
	5	(後期期末考査)			

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	芸術		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	音楽表現	担当者	辻 正博			
使用教材	改訂 音楽通論					
	各楽器ごとの楽譜					
学習目標	1 様々な音楽を理論も含めて総合的に学習することによって、生涯にわたって音楽を愛好しようとする心情を育てます。					
	2 器楽などの表現する活動や音楽を鑑賞する活動を通して、自己を表現する力や音楽の良さを感じ取る力を伸ばします。					
	3 我が国や諸外国の音楽の学習を通して、世界の音楽芸術・文化の良さを認め合う心情を育てます。					
	4					
学習方法	1 主に器楽演奏を中心に実技・実習を行います。(楽器の選択肢は限られます)					
	2 自主的に課題を見つけ解決していくことと、練習に集中する忍耐力が必要です。					
	3 機会を捉えて、様々な音楽に関わるDVDの鑑賞を行います。					
必ず取り組む最小目標	楽典・器楽演奏(独奏・アンサンブル)・演奏発表会					
実現したいと思う最大目標	学習内容の定着、各楽器の奏法等の習熟・個々の演奏に取り組む楽曲に対する理解					
評価の方法及び評価基準ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	評価方法	筆記試験や実技試験、発表会を通してこれまで学んできた成果を評価します。	筆記試験や実技試験、発表会を通してこれまで学んできた成果を評価します。	授業中における取組状況や態度、課題提出状況などにより評価します。		
	A	楽譜・音符(楽典)について深く理解した。 音楽史・作品・背景などを深く理解した。 歌唱・器楽演奏能力が著しく向上した。	題材に対して深く考えた。 歴史や背景をよく理解した。 演奏する曲(楽譜)に対して深く理解し、演奏の表現に十分つなげることができた。	深く楽しんでできた。 広く協力しておこなった。 より集中してできた。		
	B	楽譜・音符(楽典)について理解した。 音楽史・作品・背景などを理解した。 歌唱・器楽演奏能力が向上した。	題材に対してよく考えた。 歴史や背景を理解した。 演奏する曲(楽譜)に対して理解し、演奏の表現につなげることができた。	楽しんでできた。 協力しておこなった。 集中してできた。		
C	楽譜・音符(楽典)について理解しなかった。 音楽史・作品・背景などを理解しなかった。 歌唱・器楽演奏能力が向上しなかった。	題材に対してよく考えなかった。 歴史や背景からの理解しなかった。 演奏する曲(楽譜)に対して理解が深まらず、演奏の表現に至らなかった。	楽しくなかった。 協力しなかった。 集中できなかった。			

年間計画(変更する可能性もあります)			評価の観点				
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	2	(入学式)					
4	3	オリエンテーション・楽典	授業のルール徹底、音楽理論	○	○	○	
	4	楽典・ソルフェージュ・歌唱	音楽理論・聴音・校歌	○	○	○	
	5	楽典・ソルフェージュ・歌唱	音楽理論・聴音・校歌	○	○	○	
	1	(連休)					
5	2	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○	
	3	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○	
	4	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○	
	5	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○	
	2	(前期中間考査)					
6	3	器楽演習	テーブルパーカッション	○	○	○	
	4	器楽演習	テーブルパーカッション	○	○	○	
	5	器楽演習	アルトリコーダー	○	○	○	
	1	器楽演習	アルトリコーダー	○	○	○	
	2	(学校祭)					
7	3	器楽演習	アルトリコーダー	○	○	○	
	4	器楽演習	アルトリコーダー	○	○	○	
	5						
	1	(夏季休業)					
8	2						
	3						
	4						
	5	器楽演習	アルトリコーダー	○	○	○	
	1	器楽演習	リコーダーアンサンブル	○	○	○	
	2	(前期期末考査)					
9	3	器楽演習	リコーダーアンサンブル	○	○	○	
	4	器楽演習	リコーダーアンサンブル	○	○	○	
	5	器楽演習	リコーダーアンサンブル	○	○	○	
	1	器楽演習	クラシックギター	○	○	○	
10	2	器楽演習	クラシックギター	○	○	○	
	3	器楽演習	クラシックギター	○	○	○	
	4	器楽演習	クラシックギター	○	○	○	
	5	器楽演習	クラシックギター	○	○	○	
	1	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
11	2	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	3	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	4	(後期中間考査)					
	5	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	1	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
12	2	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	3	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	4						
	5	(冬季休業)					
	1						
1	2						
	3	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	4	演奏発表会	これまでの練習の成果を演奏会形式で発表	○	○	○	
	5	(後期期末考査)					
2	1						
	2						
	3						
	4						
	1						
3	2						
	3						
	1	(家庭学習期間)					

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	芸術		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	美術 I		担当者	川橋 雪弘		
使用教材	高校美術(日本文教出版) 表現、創作活動に係る道具材料(スケッチブック、筆、絵の具、制作キットなど)					
学習目標	1 作品を捉える造形的な視点について理解を深めることによって、自分のイメージに応じて表現方法を工夫し、創造的に制作することができるようにする。 2 自分なりに発想し構想を練り、絵画やデザインなどの表現する活動や作品を鑑賞する活動を通して、自己を表現する力や作品の良さを感じ取る力を伸ばします。 3 美術文化に対する造形的なよさや美しさの見方の学習を通して、主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てます。 4					
学習方法	1 美術の様々な分野やテーマに沿って、作品制作を行います。 2 美術に関わる様々な知識や情報についてプリント学習や演習を行います。 3 作品提出後は生徒相互の作品を鑑賞し、感想を書く活動を行います。					
必ず取り組む最小目標	自分の思い描く作品制作を行う。					
実現したいと思う最大目標	発想を豊かにもち、計画的に制作し作品を完成することができる。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	プリントの取り組み、作品の制作の過程と提出をふまえて評価します。		プリント課題や作品構想、鑑賞学習の取り組みと、制作手順の理解と計画性などを評価します。		制作や課題の取り組みとその提出状況及び、道具材料の準備や片付けの様子を評価します。
	A	プリント内容を理解し、課題に取り組み必ず提出した。課題に興味を持ち、題材の特性を生かして制作し作品を提出した。		作品の構想をよく練り、計画的に制作に取り組むことができた。作品の良さに目を止め鑑賞し、感想を文章化することができた。		楽しんで制作し作品に反映することができた。制作手順を考え道具材料を準備することができた。進んで道具、材料の片付けや清掃をすることができた。
	B	プリント内容を理解し、課題に取り組み提出した。課題に興味を持ち、題材の特性を生かして制作し作品を提出した。		作品の構想を練り、計画的に制作に取り組むことができた。作品を鑑賞し、感想を文章化することができた。		楽しんで制作できた。道具材料を準備することができた。道具、材料の片付けや清掃をすることができた。
C	プリントや課題の理解が不足していて取り組めなかった。課題に興味せず、雑な作品制作に陥り題材の提出ができなかった。		制作手順を理解せず確認しながら制作することができた。作品鑑賞の観点に気づけず、うまく感想を書くことできなかった。		促されて制作した。自ら道具材料を準備することができなかった。道具、材料の片付けなどが中途半端であった。	

年間計画			評価の観点			
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション	授業のルール説明	○	○	○
	4	ドローイングあれこれ	ドローイングの実習、制作	○	○	○
	5	ドローイングあれこれ	ドローイングの制作	○	○	○
5	1	(連休)				
	2	コラージュ	デザイン、絵画、コラージュ	○	○	○
	3	コラージュ	デザイン、絵画、コラージュ	○	○	○
	4	春を描く(風景画)	水彩画、写真	○	○	○
	5	春を描く(風景画)	水彩画、写真	○	○	○
6	2	(前期中間考査)				
	3	色の学習	デザイン、3原色、12色相環図制作	○	○	○
	4	色の学習	デザイン、3原色、12色相環図制作	○	○	○
	5	夏を涼しむ	うちわ制作	○	○	○
7	1	夏を涼しむ	うちわ制作	○	○	○
	2	(学校祭)				
	3	アニメーション	パラパラ漫画(手書きアニメ、動画作成)	○	○	○
	4	アニメーション	パラパラ漫画(手書きアニメ、動画作成)	○	○	○
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	芽高美術館	模写(絵画、彫塑)	○	○	○
9	1	芽高美術館	模写(絵画、彫塑)	○	○	○
	2	(前期期末考査)				
	3	オリジナルキャラクター	彫塑、粘土制作	○	○	○
	4	オリジナルキャラクター	彫塑、粘土制作	○	○	○
	5	彫金に挑戦	彫金、銅板、いぶし	○	○	○
10	1	彫金に挑戦	彫金、銅板、いぶし	○	○	○
	2	彫金に挑戦	彫金、銅板、いぶし	○	○	○
	3	彫金に挑戦	彫金、銅板、いぶし	○	○	○
	4	秋を探して	水彩画、写真	○	○	○
	5	秋を探して	水彩画、写真	○	○	○
11	1	コマドリ動画制作	スマートフォン、動画作成アプリ利用、材料自由	○	○	○
	2	コマドリ動画制作	スマートフォン、動画作成アプリ利用、材料自由	○	○	○
	3	コマドリ動画制作	スマートフォン、動画作成アプリ利用、材料自由	○	○	○
	4	(後期中間考査)				
12	5	石で作る	勾玉造りキット使用	○	○	○
	1	石で作る	勾玉造りキット使用	○	○	○
	2	石で作る	勾玉造りキット使用	○	○	○
	3	18歳の輪郭2	自画像制作(画材は自由)	○	○	○
	4	(冬季休業)				
1	1					
	2					
	3	18歳の輪郭2	自画像制作(画材は自由)	○	○	○
2	4	18歳の輪郭2	自画像制作(画材は自由)	○	○	○
	5	(後期期末考査)				
	1					
	2					
	3					
3	4	(家庭学習期間)				
	1					
	2					
3	3					
	3					

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	芸 術		学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	書道 I		担当者	比企 絢子		
使用教材	書道 I (東京書籍)					
	新編 応用ペン習字(教育図書)					
学習目標	1 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。					
	2 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。					
	3 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。					
	4					
学習方法	1 毛筆による古典の臨書・創作による表現技術の錬磨と育成。					
	2 硬筆による書写能力の向上。					
	3 自己評価・他己評価などによる鑑賞能力の育成。					
必ず取り組む最小目標	全単元の課題を提出すること。					
実現したいと思う最大目標	書の古典臨書を生かした作品制作と、硬筆または毛筆書写検定合格。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	評価方法	作品提出	作品提出、振り返りシート	振り返りシート、学習への取り組み		
	A	書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、十分に表している。	感性を働かせながら書美を感じ取り、自らの意図に基づいて構想し、表現を十分に工夫している。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組んだ。		
	B	書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。	感性を働かせながら書美を感じ取り、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとした。		
C	書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表そうとしている姿勢が見られる。	感性を働かせながら書美を感じ取り、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しようとしている姿勢が見られる。	他者からの援助を受けながら、書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。			

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	英語コミュニケーションⅡ	担当者	佐藤 光弘		
使用教材	Grove English Communication II (文英堂)				
	ユメタン1(アルク)、BIG DIPPER(数研出版)、教科書ワークブック、e-learning				
	リスニングパイロットVol2. 5(東京書籍)				
学習目標	1 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話しの展開や話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。				
	2 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。				
	3 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の文で詳しく話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。				
	4 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の文で詳しく話して伝えることができる。				
	5 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができる。				
学習方法	1 プリントによる課題・・・ 予習(①新出単語・熟語の意味調べ ②本文の全訳) 授業(①チャンク分け ②ワークシートの記入 ③音読 ④穴埋めシート記入) 復習(①本文の全訳確認 ②音読練習)				
	2 新出語の意味確認・発音練習 → 本文の内容理解(文法事項も含む) → 本文の音読練習 → 本文の暗誦				
	3 小テスト(ユメタン、本文の穴埋めテストなど)、リーディングテスト				
必ず取り組む 最小目標					
実現したいと 思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題 ・単語テスト,リーディングテスト	・定期考査 ・英作文演習	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況 ・e-learning学習状況	
	A	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理的に注意して表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとして伝え合おうとしたりする態度を身に付けている。	
	B	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を概ね身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理的に注意して表現したり伝え合ったりする力を概ね身に付けている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとして伝え合おうとしたりする態度を概ね身に付けている。	
C	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を身に付けていない。	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理的に注意して表現したり伝え合ったりする力を身に付けていない。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとして伝え合おうとしたりする態度を身に付けていない。		

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語		学年	3 学年	単位数	2 単位
科目名	論理・表現Ⅱ		担当者	田中 秀治		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・Vision Quest Hope Ⅱ ・Vision Quest Hope Ⅱ ワークブック ・Brains e-learning(タブレット) 					
学習目標	<p>1 「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、発信能力を強化するための発展的な活動を行うとともに、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えたり、伝えあったりすることができる能力を養う。</p> <p>2 日常的・社会的な話題について、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>3 日常的・社会的な話題について、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>4 日常的・社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p> <p>5</p>					
学習方法	<p>1 Workbook(文法演習)</p> <p>2 Try it out!&Expressing(自己表現活動)</p> <p>3 Logic Focus(パラグラフライティング)</p>					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題 ・スピーキングテスト・発表 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題 ・スピーキングテスト・発表 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への取り組み状況 ・課題 ・スピーキングテスト・発表
	A	英語の特徴やよきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。		目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝えあっている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。
	B	英語の特徴やよきまりに関する事項及びその働きや役割をある程度理解している。 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能をある程度身に付けている。		目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、話したり書いたりして伝えあっている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、表現しようとしている。
C	基準Bを満たしていない。		基準Bを満たしていない。		基準Bを満たしていない。	

年間計画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	Lesson1	将来の目標(主語)	○		
	4		将来の夢や実現するための努力について、文と文のつながりを意識して文章を書く。		○	○
	5	Lesson2	学校生活(動詞)	○		
5	1	(連休)				
	2		留学生のために催したい学校行事について、自分の考えや詳細を順序立てて説明する。		○	○
	3	Lesson3	スポーツ(時制・完了形)	○		
	4		好きなスポーツ選手や彼らの達成について、具体例や情報を加えて説明するパラグラフを書く。		○	○
	5					
6	2	(前期中間考査)				
	3	Lesson4	情報化時代(助動詞)	○		
	4		ソーシャルメディアの利点と欠点について話し合い、その意見を比較・対比するパラグラフを書く。		○	○
	5	Lesson5	環境問題(形容詞句・形容詞的用法)	○		
				深刻な環境問題について、理由や因果関係を示すパラグラフを書く。		○
7	2	(学校祭)				
	3	Lesson6	文化(関係詞)	○		
	4		海外旅行者の傾向について、自分の主張や理由の根拠を示す引用を用いて、パラグラフを書く。		○	○
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5					
9	1	(前期期末考査)				
	2					
	3	Lesson7	言語教育(副詞・副詞句)	○		
	4		公用語について書かれた記事の構成や要点を理解し、要約をパラグラフにまとめる。		○	○
	5					
10	1	Lesson8	社会(話法・伝達表現)	○		
	2		日本の教育制度に関する発表を聞き、要点を理解し、要約をパラグラフにまとめる。		○	○
	3	Lesson9	願望(仮定法)	○		
	4		自分の願望について、詳細な説明や理由を付け加えてスピーチする。		○	○
	5					
11	1	Lesson10	科学技術(数量を表す表現)	○		
	2		AIと共に生きるのに何が重要かについて、資料やデータを示して発表する。		○	○
	3					
	4	(後期中間考査)				
	5	Lesson11	健康(原級・比較級・最上級)	○		
12	1		「10代の若者は8～9時間の睡眠をとるべきか」という議題のディベートにおいて、自分の立場から主張や根拠となる考えを述べる。		○	○
	2	Lesson12	ビジネス(否定)	○		
	3		チョコレートの売り上げを伸ばすのに重要なことについて、グループで共に意見や考えを出し合い、ディスカッションする。		○	○
	4					
	5					
1	1					
	2					
	3					
	4					
	5	(後期期末考査)				
2	1	(家庭学習期間)				
	2					
	3					
	4					
3	1					
	2					
	3					

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語		学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	英語実践		担当者	佐藤 光弘		
使用教材	共通テスト10分リスニングプレノート(数研出版)					
	スクランブル英文法・語法(BASIC)					
	スクランブル英文法・語法(BASIC) トレーニング問題集					
	英語速読テスト READING GYM (標準編)(発展編)					
	ICT教材 Brains e-learning					
学習目標	1 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。					
	2 将来の目標に向けて、幅広い話題について語彙を増やし、英語で読んだり、理解できるように努める。					
	3 問題演習を繰り返し行い、リーディング、ライティング、リスニングに対応できる実力を育成する					
学習方法	1 予習 文法・構文を理解しながら、問題演習に取り組む。					
	2 演習 授業で予習の内容を確認し、リーディング問題、リスニング問題、ライティング問題に積極的に取り組む					
	3 復習 授業での重要事項を確認して定着させる					
必ず取り組む最小目標	英文の概要をおおまかにとらえる					
実現したいと思う最大目標	英語のリーディング、ライティング、リスニングを意識して学習する					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査 ・小テスト ・音読テスト ・リスニングテスト		・定期考査 ・英作文		・学習活動状況 ・ICT教材の活用
	A	80%以上の点数で評価とする。		英作文においては、文法・語彙を正しく使用し、論理的に分かりやすく書かれている。		学習活動に積極的で、ICT教材を積極的に活用している。
	B	50%～79%の点数で評価とする。		英作文において、文法・語彙に多少間違いはあるが、内容は伝わる。		学習活動、ICT教材の活動についてやや不十分であるが活用している。
C	49%以下の点数で評価とする。		英作文において、文法、語彙の間違いが多すぎて、内容が伝わらない。		学習活動、ICT教材の活動について不十分である。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	家庭科		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	保育基礎		担当者	小林 郁美		
使用教材	教科書「保育基礎」(実教出版)					
	資料集「生活ハンドブック」(第一学習社)					
学習目標	1 保育に関わる課題について思考を深め、課題を発見する。					
	2 実際に乳幼児とふれあう学習など、実践的な学習活動を行う。					
	3 保育に関わる課題について思考を深め、課題を発見する。					
学習方法	1 教科書、資料集、ワークシート、タブレットを使用し、教室で授業、グループワークなどを行う。					
	2 学んだ内容をもとに調理室において調理実習を行う。					
	3 学んだ内容をもとに、校内校外において探究活動を行う。					
必ず取り組む 最小目標						
実現したいと 思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。子どもの発達の特徴、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。		子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。		子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。
	A	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に十分身につけている。子どもの発達の特徴、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。		子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を十分身につけている。		子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を十分身につけている。
	B	保育に関する基礎的・基本的な技術をおおむね身につけている。子どもの発達の特徴、生活と保育に関する知識をおおむね身につけている。		子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力をおおむね身につけている。		子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度をおおむね身につけている。
	C	保育に関する基礎的・基本的な技術が不十分である。子どもの発達の特徴、生活と保育に関する知識が不十分である。		子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力が不十分である。		子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度が不十分である。

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	商 業		学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	ビジネス基礎		担当者	横田 たき子		
使用教材	ビジネス基礎(実教出版)					
	高校生からのビジネスマナー、ビジネス基礎問題集、事例探求ワークブック					
学習目標	1 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、ビジネスの意義や役割を理解する。					
	2 ビジネスのの諸活動を主体的かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を養う。					
	3 経済社会の一員としての心構えを持ち、ビジネスの諸活動に適切に対応できるような能力・態度を身につける。					
学習方法	1 自分の理解を補うために、積極的にメモをとりながら授業を受けましょう。					
	2 学習内容が実社会のどのような活動を指しているのか、さまざまな事柄に興味を持ち、積極的な態度で授業を受けましょう。					
	3 毎時間の授業を大切にし、課題は期限を守ってしっかりと取り組みましょう。					
必ず取り組む最小目標	真面目な態度で授業を受け、課題には丁寧に取り組む。					
実現したいと思う最大目標	ビジネスの理念を理解し、責任ある職業人となるにふさわしい態度を身に付ける。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	定期考査 実技テスト 課題		課題 実技テスト 事例探求		課題 実技テスト 事例探求
	A	商業の学習及びビジネスの概要について理解することができる。		商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展と関連付けて見いだすことができる。		ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	B	商業の学習及びビジネスの概要について概ね理解することができる。		商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、見いだすことができる。		ビジネスに主体的かつ協働的に取り組むことができる。
C	商業の学習及びビジネスの概要について理解することができていない。		商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、見いだすことができない。		ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む努力が必要である。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	商 業	学年	2 学年	単位数	3 単位
科目名	課題研究	担当者	横田 たき子		
使用教材	全経簿記検定試験2級PAST(英光社)				
学習目標	<p>1 商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化を図る。</p> <p>2 問題解決の能力や自発的創造的な学習態度を身に着ける。</p> <p>3 活動成果の検証と改善を繰り返した継続的な学習態度を身に着ける。</p>				
学習方法	<p>1 自分の理解を補うために、積極的にメモをとりながら授業を受けましょう。</p> <p>2 学習方法の改善、工夫を心掛けましょう。また、複数人で行う業務は共同を心掛けましょう。</p> <p>3 企業のビジネス活動について常に探求心を持ち、小さな疑問を大切に自ら調べる習慣をつけましょう。</p>				
必ず取り組む最小目標	真面目な態度で授業を受け、課題には丁寧に取り組む。				
実現したいと思う最大目標	自発的で継続的な学習態度を身に着ける。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総括して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査 ・課題	・課題 ・レポート ・発表	・課題 ・レポート ・発表	
	A	自ら設定した課題に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、課題解決の意義について理解している。	商業に関する専門的な知識と技術の深化を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に課題を解決する方法を適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	商業に関する専門的知識に関心を持ち、商業に関する課題を生徒自らが設定し、自ら学ぶ目標を定め、自ら学び考えるなど主体的に取り組もうとするとともに、自発的、創造的に学習に取り組む態度を身に付けている。	
B	自ら設定した課題に関する基礎的・基本的な知識を概ね理解している。	身に付けた商業に関する知識と技術を基に、課題を解決する方法を判断し、表現しようとしている。	商業に関する専門的知識に関心を持ち、商業に関する課題に主体的・協働的に取り組もうとしている。		
C	自ら設定した課題に関する基礎的・基本的な知識を理解することができていない。	身に付けた商業に関する知識と技術を基に、課題を解決する方法を判断し、表現しようとしていない。	商業に関する専門的知識に関心がなく、商業に関する課題に主体的・協働的に取り組む努力が必要である。		